

## デイホーム事業について

	平成 24 年度末	平成 25 年度末
総人口	39,221	38,612
要支援1認定者(※)①	403	396
要支援2認定者(※)②	732	710
要支援認定者 計(①+②)	1,135	1,106
総人口の内65歳以上(再掲)	15,141	15,164
総人口の内70歳以上(再掲)(対象者)	12,275	12,126
会場数	53	57
デイホーム開催回数	582	629
デイホーム参加者延べ人数	8,289	8,867
デイホーム実人数	1,369	1,413
会場ごと平均実人数	25.8	24.8

※ 要支援1・2の人数は、介護保険事業状況報告の数値を使用し、第2号被保険者の人数を減じている。

※ 介護保険の第2号被保険者とは、40歳以上65歳未満の医療保険加入者である。介護保険で定める16の特定疾病（筋萎縮性側索硬化症、関節リウマチ、脳血管疾患等）が原因で要介護・要支援状態となった場合に限り、認定を経て、介護サービス・介護予防サービスを利用することが出来る。

### 【利用者の声】

- ・年1回の地域めぐり（春季の花見）や世代間交流（保育園児、小学生児童）など、色々な内容で実施され、毎回楽しみにしている。
- ・健康チェック、軽微な体操をすることで日常生活に役立っている。
- ・同じ地域でも普段なかなか会えない人もいる。デイホーム事業で会って話すことが刺激になり楽しい。最高齢（95歳）の利用者のことが刺激になり、それを目標に普段の生活を頑張れる。
- ・利用者間での絆が強まる。（休んだ利用者の心配、お見舞い関係）
- ・地域全体（自治振興区）で取り組まれており、多少体が不自由または遠方に住んでいても、送迎があり参加できる。身近な地域での実施で参加しやすい。送迎ボランティアには感謝している。
- ・持参した花をもとに、花作りなどに会話が発展するなど、楽しい時間を過ごすことができています。
- ・食事が手作りなので、みんなで食べるとおいしい。
- ・介護認定を受けていても地域が実施する事業なので、参加できる。（デイサービスを休んで参加している人もいます）

- ・毎月開催でも良い。
- ・日ごろは、家に引きこもりがちとなるので、地域においてデイホーム利用でき大変助かる。
- ・家の若い者が働きに出掛けると、昼間は一人きりとなる。電話や訪問客等があったら非常に不安を感じるので、地域の中で話す場が出来て助かる。
- ・昔はよく地域の中に出掛けていたが、最近は出掛けることが少なくなったので、こうした集いがあると非常に有難い。
- ・これから段々と年を重ねるので、家からの外出も少なくなると思う。こうした機会をもっと増やしてほしい。
- ・デイサービスは、知らない人が多く、少し不安を感じるが、デイホームは地域の中で行ってもらえるので、顔見知りばかりで非常に楽しい。

### 【運営スタッフ側の声】

- ・会場が狭く、座椅子等が置けず、参加者数が制限される。現状では利用者の増員は難しい。
- ・スタッフを増やし、交代制としたい。
- ・スタッフの高齢化が進み、交代要員確保が困難な状況下にある。
- ・スタッフの後継者のなり手がいない。
- ・現在の回数が限界である。
- ・見学に来られた医師が、高齢者の方がいきいきされているので感動したといわれていた。
- ・参加者の家族も、喜んで送り出している。
- ・地域のあらゆる団体との交流と支援体制の確立が必要（自治会、老人クラブ等）
- ・利用者の拡大に課題がある。（スタッフの人数が増えない）
- ・研修（救急法、ノロウイルス等の対策方法、食事作りの衛生管理、簡易なゲームや誰でも出来る遊び（心身のリフレッシュ）等）等、スタッフの育成が必要。
- ・食事のレシピを含み、デイホームの内容を考えるのに苦慮する。
- ・平日実施だが、祝日・日曜日も考えて、スタッフの参加も検討したい。
- ・高齢者に限らず、多くの人が集まってもらえるよう、工夫したい。
- ・毎回楽しみにされているので、やりがいがある。
- ・市の補助金があるので続けることができる。
- ・補助金は、弁当代くらいなので、もっと活動出来るよう増額してほしい。活動や行事をするうえで、講師料等の捻出が出来ないので考えてほしい。
- ・移動手段のない方への送迎を行っているが、事故が発生した場合が不安である。
- ・送迎する度に、利用者の方から感謝の言葉を頂くので頑張ることができる。
- ・送迎が無いので、福祉タクシー等の利用が出来るようにしてほしい。
- ・スタッフが足りないので、何らかの手助けをしてほしい。
- ・男性の参加者が非常に少ないので、もっと呼びかけが必要。